

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

1. 概要

(1) 平成18年度CSI委託事業の領域2として採択された

(2) 役割分担(主担当) 北海道大学 (連携) 千葉大学 金沢大学

北海道大学 メールングリスト、Wikiの運営

千葉大学 ワークショップ開催・運営

金沢大学 総括

(3) 活動の名称 Digital Repository Federation (DRF=ダーフ)

(4) 名称の意味 組織横断的な連携を強調

(5) 活動予算 ウェブサーバ構築経費、ワークショップ開催費用等

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

1. 概要(続)

(6)参加大学 2007年6月26日現在 40大学・研究機関参加
→内2007年新規参加大学 12大学・研究機関

(7)活動の趣旨・活動原則は、

- 機関リポジトリの運営・持続のための館種を超えた相互協力活動
- 相互協力活動を通して連携の方式・モデル・あり方を探る
- 2006年はCSI参加大学間でリポジトリの運営を支援する目的
- 自主的なInitiativeで、あくまでもボランティアな活動
- 義務ではなく、協力する意思のある組織・人ができる範囲で協力
- 具体的な活動は、
- 情報交換ツールとして、メーリングリスト、Wikiを提供
- 2回にわたりワークショップを開催した(会場は千葉大、早稲田大)

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

2. 2006年度の活動実績

(1) 2006年度ワークショップを2回開催

- * 第一回共同ワークショップ「日本の機関リポジトリの今2006」 於千葉大学

2006年11月16日17日 2日間で延べ221人参加

CSI事業領域2の「著作権ポリシー」(千葉大、筑波大、神戸大)と共催

初日「著作権とオープンアクセス」

2日目「機関リポジトリの構築に向けて:CSI事業の意義とケーススタディ」

- * 第二回ワークショップ「日本の機関リポジトリをデザインするー設計とコンテンツ」 於早稲田大学

2007年2月8日9日 2日間で延べ224人参加

終了後、DRF参加大学でミーティング(NIIを含めて35名余り参加)

NIIのポータル研修協力要請(→現在準備中)

(2) 情報交換活動

メールの投稿数 899回(2007年6月22日現在)

Wikiのアクセス数 16,329回(メインページのみ 2007年6月22日現在)

内容 リポジトリの運営・技術に関すること、オープンアクセスに関すること、メタデータに関すること、著作権に関すること、デジタル技術に関すること多種多様な投稿

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

3. 活動の原則(再確認の意味で)

- (1) 参加資格はないが、機関参加が原則
- (2) 国公立や大学・研究機関などの設置種別や組織種別を超えて機関リポジトリという側面で(図書館間)相互協力を実施する
- (3) CSI事業継続中は、3大学が活動を支え参加館は活動に協力する原則
- (4) 識者にアドバイザーを委嘱 活動にご協力・ご意見を頂きながら、研究者と実務担当者のコラボレーションを実現する
- (5) 相互協力活動を実施しながら、Initiativeの活動方式(モデル)を模索する
- (6) 2年間の活動の経験を来年度以降の活動(方式)に活かす
- (7) 相互協力の目的は、
 - 機関リポジトリの持続と拡大
 - オープンアクセス思潮に関する情報共有(広報)
 - リポジトリによるインターネット時代に対応した学術情報流通の実現(CSI)

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

4. 2007年度の活動予定

- (1) 新規参加募集 国公立大学に文書発送、Wiki掲載、Open Access Japan掲載
- (2) 情報交換活動の継続 メールリスト(drf)、Wiki
- (3) ワークショップの開催 11月9日(金) 図書館総合展で開催予定
テーマ「日本の学術コミュニケーションと機関リポジトリ」 会場は200人規模の予定
基調講演、パネルディスカッション、ケーススタディから構成(予定)
- (4) 国際シンポジウムの開催 仮称 Open Repositories Japan 2008 (ORJ 2008)
大阪大学(吹田キャンパス)で開催 NII、近畿イニシアなどと共催予定
開催日程 2008年1月30日(水)午後 31日(木)全日
- (5) 活動報告(次期活動方式提案)の作成 2008年2月
2年間の活動を踏まえて、2008年度以降の活動方法等の提案
- (6) その他の研修 NIIのポータル研修協力 独自にリポジトリツアーを実施予定
- (7) 新規アドバイザー(敬称略)
土屋俊(千葉大学教授) 倉田敬子(慶応大学教授)
三根慎二(慶応大学非常勤講師) 芳鐘冬樹(大学評価・学位授与機構助教)
小山憲司(三重大学准教授) 池田大輔(九州大学准教授)

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

5. 情報交換活動の基盤など

(1) 情報交換ツール

ML drf@lib.hokudai-u.ac.jp 誰でも登録、投稿可能

Wiki <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php> 更新可能(要パスワード)

ORJ 2008 HP http://drf.lib.hokudai.ac.jp/orj2008/index_en.html (暫定HP)

(2) アドバイザー(敬称略) 13名

行木孝夫(北大) 佐藤義則(東北学院大) 逸村裕(筑波大) 栗山正光(常磐大) 土屋俊(千葉大) 竹内比呂也(千葉大) 倉田敬子(慶応大学) 三根慎二(慶応大学) 芳鐘冬樹(大学評価・学位授与機構) 小山憲司(三重大学) 池田大輔(九州大学准教授) 村上祐子(NII) 尾城孝一(NII)

(3) DRF参加大学間 ML運用(全参加大学で運用) drf-liaison

(4) DRFコアー大学間 ML運用(3大学、NII、大阪大学で運用) drf-board

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

6. 参加大学(参加順) 2007年6月26日現在 40大学・機関

北大、千葉大、金沢大、帯広畜産大、早稲田大、大分大、京都工芸繊維大
鹿児島大、北陸先端大、山形大、大阪大、横浜国立大、大阪教育大、
広島大、名古屋大、三重大、神戸大、北見工大、九州大、埼玉大、山口大
筑波大、旭川医大、関西学院大、室蘭工業大、兵庫教育大、京都大、信州大
秋田大、岐阜大、小樽商科大、はこだて未来大、新潟大、
日本原子力研究開発機構、富山大、東京歯科大、近畿大、女子栄養大
聖路加看護大、島根県立大学

(内訳) 国立大学 31 私立大学 6 公立大学 2 研究機関 1

連携の現状

Digital Repository Federation

オープンアクセス
の紹介・広報

後発館支援

企画・立案
・予算執行

Initiativeの活動
方式の共有

リポジトリ設立・
運営の経験・
関連情報の共有

DRFコアー
北大、千葉大、金沢大

DRF参加大学

企画実施
協力

相互協力に
よるリポジトリ
の持続と拡大

リポジトリに関心を有するすべてのステークホルダー
大学、研究機関、研究者、学会 etc

助言・提案・
情報提供

DRF アドバイザー

国立情報学研究所(NII)
事業委託を通してプロジェクト助成
→学術情報環境の改善

CSI委託事業・領域2

機関リポジトリコミュニティの活性化

- リポジトリ・イニシャチブの参考例 イギリスの場合
 - (1)大枠 JISC Digital Repository Program (FAIR Programの後継)
 - (2)プロジェクト Sherpa plus (Sherpaの後継) University of Nottingham中心
 - (3)活動母体 UK Council of Research Repositories (UKCoRR)
 - (4)組織の中身 Sherpaの活動の副産物としてリポジトリ管理者のプロフェッショナルな組織を結成
 - (5)現状での活動 地域イベントをSherpa Plusの活動として実施
 - (6)情報交換 JISC Mailing List(リポジトリ、オープンアクセスの情報交換) ←drf
<http://www.jiscmail.ac.uk/archives/jisc-repositories.html>
 - (7)コンタクト できればORJ 2008でプロジェクト担当者(ノッティンガム)を招請したい
- JISC Digital Repository Program
http://www.jisc.ac.uk/whatwedo/programmes/programme_digital_repositories.aspx
- Sherpa Plus <http://www.sherpa.ac.uk/projects/sherpaplus.html>
- UKCoRR http://www.sherpa.ac.uk/guidance/UKCORR_Regional_events.html#events

Open Repositories Japan (ORJ2008)

- 暫定HP http://drf.lib.hokudai.ac.jp/orj2008/index_en.html
- 日程 2008年1月30日(水)午後 31日(木)全日
- テーマ オープンアクセスと機関リポジトリ(日本のIRをアピールしましょう!)
- 構成 (1)基調講演(2)プロジェクト紹介(3)事例報告(4)ポスターセッション
- 日付 10月19日プログラム決定 10月22日一般参加公募開始
12月14日一般参加締切 1月第1週ポスター締切
- 参加費 懇親会等の実費のみ
- 招聘予定 オープンアクセスの識者、海外のプロジェクト・リポジトリ担当者、
国内のリポジトリ担当者、DRFアドバイザー
- 会場館 大阪大学附属図書館 (会場)吹田キャンパス・银杏会館250人収容
- 会場HP <http://www.office.med.osaka-u.ac.jp/icho/icho-jp.html>
- 実施体制 ○実行委員会(委員長 土屋千葉大教授、DRFメンバー)
○地域組織委員会(近畿地区の大学) 近畿イニシアが共催
- 協力のお願い (1)一般参加 (2)ポスターセッション参加 (3)事例報告の依頼
(4)学内広報

第3回DRFワークショップ 日本の機関リポジトリの今2007

於 図書館総合展 横浜パシフィコ

- 日時 2007年11月9日(金) (1)10:30-12:00 (2)13:00-14:30 (3)15:00-16:30
- テーマ(予定) 「日本の学術コミュニケーションと機関リポジトリ」
- 構成(予定) (1)基調講演1 「オープンアクセスと機関リポジトリ」
- 基調講演2 「日本の学術コミュニケーションと機関リポジトリ」
- (2)パネルディスカッション
- 「オープンアクセスと機関リポジトリ—大学図書館の役割を検討する」
- (3)事例報告 DRF参加大学
- 会場 パシフィコ横浜アネックスホール 200人収容 多目的ホール
- <http://www.pacifico.co.jp/visitor/info/annex.html>
- 講師(予定) DRFアドバイザー、DRF参加大学リポジトリ担当者
- 協力のお願い (1)一般参加 (2)学内広報 (3)事例報告参加(DRF参加大学)
- スポンサー 国公立大学図書館協力委員会

次期連携
モデル例

(主担当)
ML、Wiki運営

(主担当)
ワークショップ
開催

(主担当)
海外連携

Digital Repository Federation

(主担当)
独自研修実施
ポータル研修支援

企画・立案

DRF運営委員会
(DRF参加大学より公募)

ミニマムな
会費(?)

DRFアドバイザー
ボード

助言・提言・
情報提供

企画実施

相互協力に
よるリポジトリ
の持続と拡大

DRF参加大学

リポジトリに関心を有するすべての
ステークホルダー
大学、研究機関、研究者、学会 etc

財政支援継続
の要望(?)

ボランティアな活動
が原則である

国立情報学研究所(NII)
事業委託を通してプロジェクト助成
→学術情報環境の改善継続